

神戸の風色

KOBE・FUSHOKU

堀内初太郎 NO.59





From Kobe with Love



さりげなく自己主張する知的エレガンス。

〈リザ・サロン〉は、素敵な着こなしを通して

これからの女性の生き方をはばひろく提案いたします。

神戸の洗練された感覚をベースにしたファッションスペース

〈リザ・サロン〉へぜひお出かけください。



リザはファッションを通して豊かな生活を考えます

LIZA SALON

〈リザ・サロン〉神戸本店

神戸市中央区三宮町1-9-1三宮センターブラザ3階 TEL. 078 (391) 6806

全国「リザ・サロン」のご案内／札幌・仙台・水戸・藤田・所沢・船橋・東京・川崎・横浜・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・松山・北九州・大分・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

〈秋色〉へのプレリュード...

深まる秋はパールカラー。
やさしさ色にあなたをそめて...



SELLERS & IMPORTERS OF CULTURED PEARLS
KINOSHITA PEARLS CO.,LTD.

Order Salon

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM~6:00PM 木曜日定休



Good Taste Collection
in
Sanohe



ENRICA MASSEI

**BEPPE
BONDI**
Perris
Bernard

MARIANNE DAVID

philippe salvet

トアロードサノヘ

TEL. 078・331・1952

リンクスの売り物はエレガンス。ところは浪漫通・元町です。



港町・神戸の浪漫を今も感じさせる街、元町。“リンクス”は、こんな素晴らしい元町にオーブンてきて大感激です。ぜひお仲間にれてください。ところで“リンクス”的売り物はエレガンス。そう元町にびったりなのです。もちろんファッショントマトから服には自信があります。とくに大きなサイズなら、もう大自信です。ぜひ一度ご覧においでください。

リンクスのサイズはあなたにジャストフィット。11、12、13、15、17号と幅広い展開です。



エレガンスサロン
リンクス

神戸市中央区元町通2丁目
(078)-331-0822

この秋とりたての新栗です



新栗 マロングラッセ

秋が生んだお菓子の芸術品

まわりがセピア色に染まる季節。秋の味覚に代表される品格ある新栗の登場です。神戸鳳月堂のマロングラッセは世界で最も品質の良い日本の栗だけを使いました。だからこの秋とりたての新栗ということを強調できるのです。まろやかな甘さと、コクのある風味。まさに最高級の銘菓です。



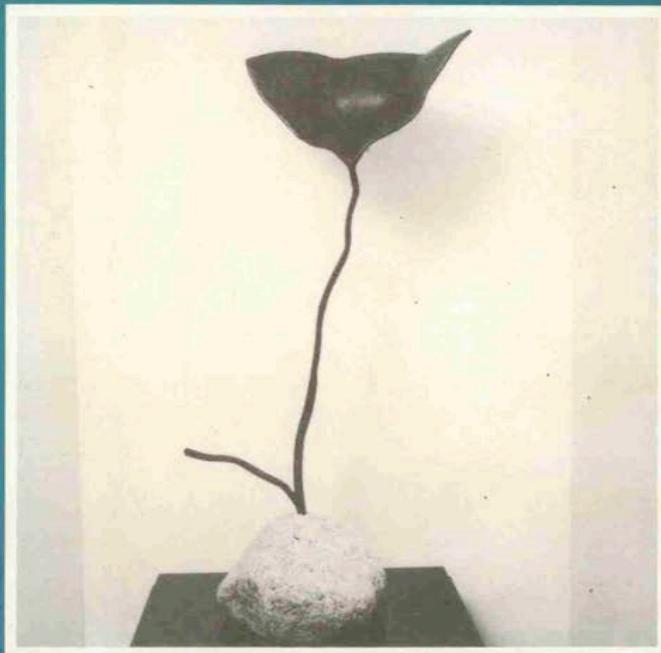
神戸鳳月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎ (078) 321-5555

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

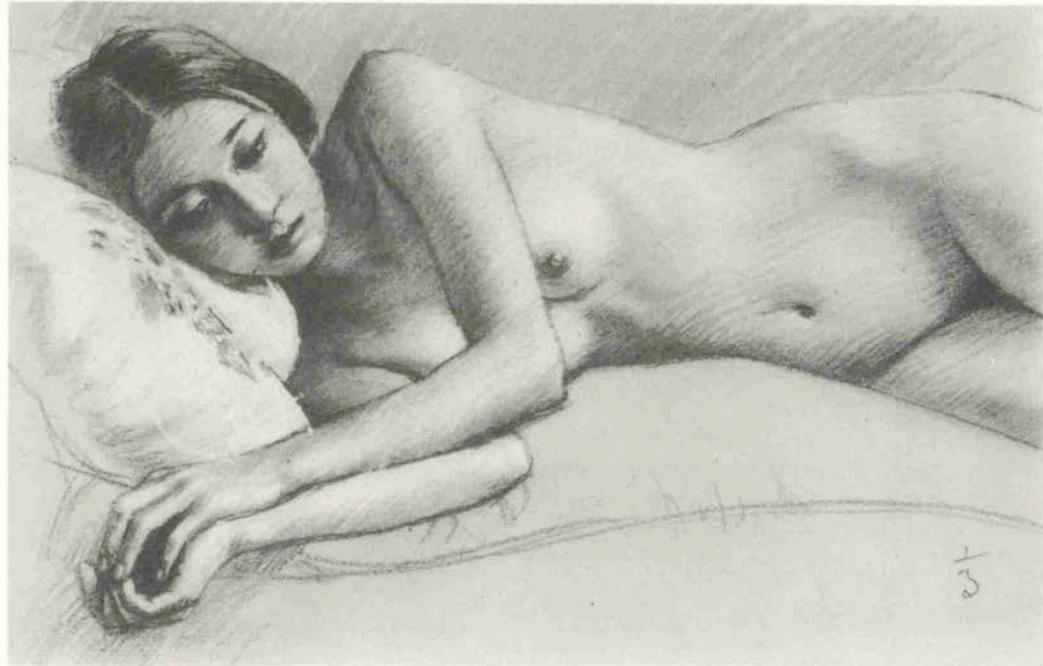
11月号目次 ● 1984・No.283

- 表紙／小磯良平
セカンドカバー／スケッチブックから(7)／ヨーロッパを描く／西村 功
9 神戸っ子'84／取阪由起子・大野伸二
12 ある集い／神戸帆船模型の会・芦名安人
15 コウベスナップ
16 エトランセの輪郭(3)／南 和好
18 神戸の風色(5)／堀内初太郎
29 わたしの意見／平島達司
31 隨想／高石 務・鍋島直美・川池勝志
34 夢エッセイ(Ⅲ)／野口武彦
36 こうへ味な旅(5)／東 君平
39 地域文化論(その63)／
40 須田烈太インタビュー／私の絵は、8歳の絵なんですね。
46 キャンペーン／神戸ブランドで彫刻作品を世界に輸出しては。
52 神戸トータルファッショニフェア'84
—神戸を語ろうファッショニフェア'84
HUMAN・LIVE・CREATIVE—
54 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳
56 ファッションレポート／リザ・ヨーロッパエクセルレントコレクション'84—'85
—'84秋冬魔女コレクション
58 第1回「神戸の新しい風景」フォトコンテスト入賞者発表
61 経済ポケットジャーナル
62 話題のひろば! 第8回井橋文化賞受賞式
(2)チュー太郎の会
64 KOBE LIVING TOMORROW 1 座談会「神戸っ子の居住空間考」
68 出会いの旅／林 恵介
74 10周年を迎えて 座談会「若さとまごころの通いあう街サンこうべに」
76 ファッションスポット
84 NEUE MODE MÄRCHEN'81／藤原順子
86 もうさんのHYOGO・WALK! 7／マンガ・高橋 孟
88 小山乃里子の華麗なるKOBEを見てある記／阪急フレーブスパリーグ優勝
106 EVENT-IN-KOBE／神戸ポートアイランドにコスモボリスを夢見る
108 クラフト・ルル・お書のふるさと奈良・吉野・下市を訪ねて
117 コーヒーブレイク
118 動物園飼育日記(228)／亀井一成
122 有馬競時記(11月)
124 神戸を福祉の町に(131)／橋本 明
127 神戸の集いから
128 元町キャンペーン(座談会)／元町まちづくりを考える
130 おしゃれアタックルボ／コスマチックス神戸を訪ねて
132 兵庫界隈記／演劇団 劇団「どろ」
134 ふらっしゅ・ぱっく(49)／淀川長治
136 KOBE MODERN CULTURE
138 コスモ・ファンタジー／数1000回の明日こそ(3)／佐藤晴美
144 KFSニュース
146 神戸百店会だより
148 ポケットジャーナル
152 小関三平の「神戸おもしろ風俗記」
156 びっといん
158 連載小説／薫蘭の聲音(第6回)／菊池佐紀・松・池内 登
176 連載エッセイ／風のファンタジア(11)／吉村由美
182 海船港／帆船「新日本丸」を訪ねて
カメラ／米田定蔵・橋本英男・池田年夫・坂上正治・田村 康
松下孝一・松原卓也・泊 浩久



目次作品／宮崎豊治「身辺モデル」

女、鼓動てますか。



女。——それは魅化粧。高塚省吾／絵

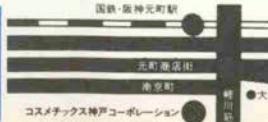
業界で脚光を浴びている当社独自の瘦身美容。

エステティシャンが考え、素肌美だけを追求した[®]ハミール美粧品。

コスモボリタンシティ、神戸・元町を拠点に全国各地へ。

次々とオリジナル・ブランドを発表。

今日は2時間で5cmダウンの痩身美容。またはお肌の悩み(にきび・しみ・小じわ・かぶれ等)をお持ちの方のために、特にやさしいオリーブオイルのフェイシャル美容を、お一人様一回限り無料にてお試し頂けるよう企画致しました。(神戸店のみ)
なお、ご来店の前には電話にてご予約下さい。



コスメックス神戸コーポレーション

札幌・仙台・浜谷・原宿・横浜・名古屋・京都・大阪・和歌山・神戸・広島・山口・徳島・高知・博多

コスメックス神戸コーポレーション

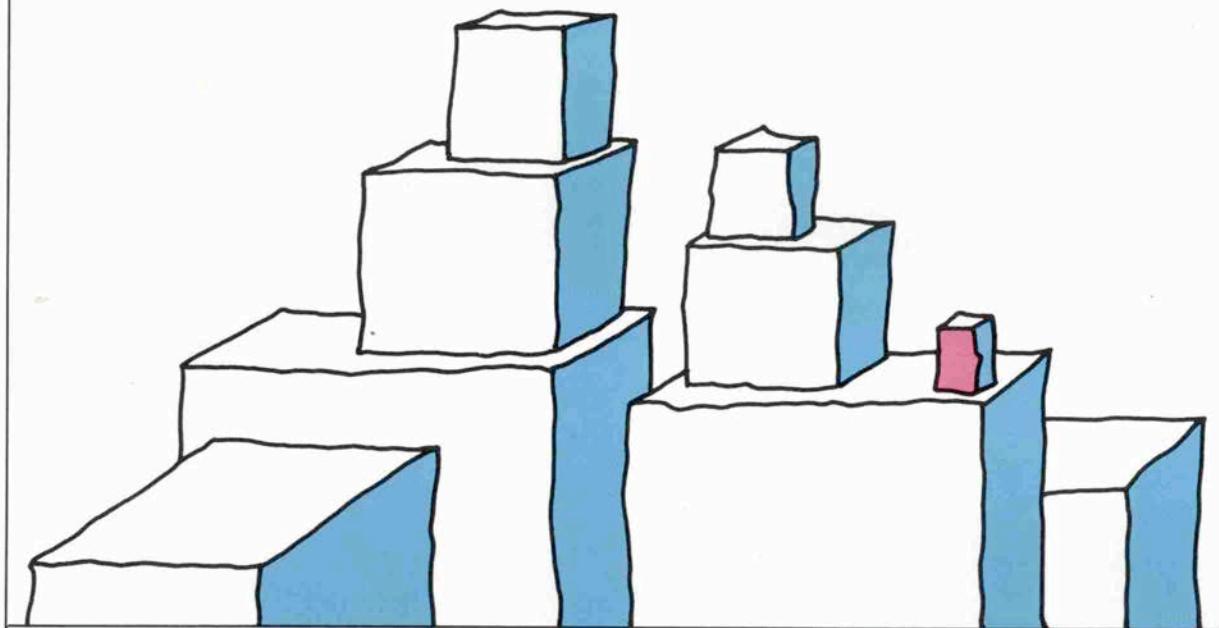
神戸市中央区栄町通1-2-29 番和ビル3・4F

無料体験シリーズ予約係 078-391-4077(代)

スタッフ募集中

お試し券
神戸つ子11月号

WINTER COLLECTION



ショッピングは、楽しみである。

リザ・サロン

ベンチ

Caro's

VICTOIRE

ダイアナ

サイズショップダイアナ

ルペールⅡ

ランプ

ゲルラン

東京屋

新宿・高野

BONフカヤ

ココ山岡

ブランコ

ホットマン

三愛

FASHION
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センター・プラザ)

3F

電話078(332)1698

営業時間 A.M11:00-P.M8:00

心地よい病院にイメージチェンジ



清潔な待合室



イメージチェンジした外装



ステンレス張りの検眼室



診療室



近代的な設備

「病苦を癒すのが医師の使命であれば、その建物、設備についても、出来得る限り、近代化し、気分を和らげ、樂しくなる雰囲気作りも大切。——例えばメルヘン調に。こんな気持ちからミツワさんに診療所改造を依頼しました。結果は写真通り!『未来の診療所』の先取りと、全国各地からの反響も大きく、喜んでいます。

有沢眼科院長 有澤 武

企画・設計・施工

INTERIOR DESIGN
MITSUWA

〒651 神戸市中央区割塚通5丁目2の18

上村ビル内

電話 神戸 (078) 222-2011(代)

☆私の意見

神戸の音楽活動の拠点となる音楽博物館を

平島 達司

〔松蔭女子学院大学短期大学教授〕



私は、本来専門は化学なのですが、音楽マニアが昂じて、オーディオに二十年ばかり熱を上げ、それからオルガン作りに転じ、現在は調律の研究を主にやっています。

音楽というのは、昔は幾何学、算術、天文学とともに理科学系列にあったのです。それというのも、物理学者が調律法を生み出していたからであり、そんなところから、科学史の切れ目と音楽史の切れ目が一致するという興味深い現象が起っています。

最近ある楽器メーカーで、スイッチを切り換えるだけで音律の違いを弾き分けられる便利な機械が製作され、音楽の根本である音律の問題、調律法などが改めて考え直される時期が来たといえます。

私はかねてから、こういった音楽の基礎が研究でき、一般の方々に音楽を親しんでいただけの“音楽博物館”というものが神戸に欲しいと思ってきました。

神戸は、音楽には縁の深い土地です。須磨の一弦琴をはじめ、宮城道雄、田中正平、といった音楽史に大きな位置を占める方が生まれています。ですから、神戸に音楽博物館が出来たら、まず、神戸出身、あるいはゆかりの音楽家のリストを整備する。そして個人的に所蔵している音楽関係資料、楽器などを寄託していただき、一括所蔵する。しかもそれらを、音を出せる状態で陳列する。また、海外の民族楽器なども随時加えていくのも良いと思います。さらに、博物館内に小ホールを設けて、音律問題などをテーマとした講演会を開いたり、発掘された楽器、いろいろな調律法による楽器を使って、実験的な音乐会をやってみることも、博物館の存在をさらに意味あるものにするのではないか。

場所としては、以前考古学博物館があった須磨離宮公園が良いと思います。あそこならば、神戸フィルや室内楽奏団のような大規模な演奏会も公園の中で出来ます。そういういろいろな可能性を持った、神戸の音楽活動の拠点となり得る音楽博物館を、ぜひ建てたいですね。

Sky Night Lounge



★スカイ・ナイトラウンジ

11階

★time=20:00～

22:30

おのみものとスナック

名種ビール	¥650～
スコッチウイスキー	¥800～
アメリカーノ	¥800
アレキサンダー	¥1,300
各種カクテル	¥800～
ガーリックトースト	...	¥600
セロリースティック	...	¥600



神戸オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25番地

TEL 078(331)8111

神戸の夜が深呼吸すると
夜の港が語りかける
神戸の夜が深呼吸すると
影絵の六甲が語りかける
あなたの夜が深呼吸すると
星の王子様が語りかける



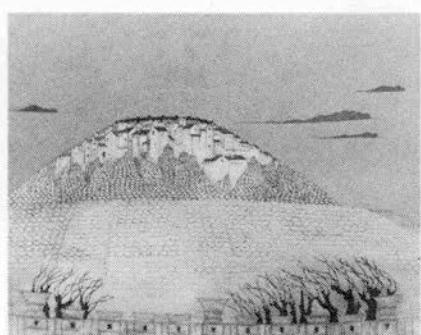
秋と冬のすき間のひととき

熱いコーヒーとバター風味豊かな
ハイデザントで過ごす。



ユーハイム

隨想



カット／上尾 忠生

ワインと成人病

高石 務

八萬石内科クリニック 医学博士▽

古代ギリシャでは、紫水晶に酔いを防ぐ力があると信じられていて、お酒を飲むときにはいつも身に付けていたといいます。そこで、この石を、ギリシャ語でアメジスト、 α (無い) + $methyls$ (酔う) + t (もの)と名付けたのです。最近、米国ハーバード大学で、'amethystic agent' (酔わない薬)なるものが開発されました。きっと、必要があつての発明でしょうね。何のためにお酒を飲むのかわから

なくなりそうです。いずれにしろ、古今東西、アルコールとの付き合いには、とかく苦労してきたようです。

ところで、人の健康とワインにまつわる格言や言い伝えの類は数多くあります。なかでも六〇〇年も昔のこと、大司教さまの生命を救ったモーゼルの名酒、ベルンカステラー・ドクトールのことは多くの人の知るところ。ところが、"ドクトール"の隣の煙から採れる"墓場"という名の、これまで美味しいワインのあることはあまり知られていません。いかにもドイツ人らしい無骨なユーモアがほほ笑ましい。ワインとは、まさに生と死をさまよが如き飲みものなのでありますようか。

時は移って現代。言い伝えに代つて科学のメスが入ります。ここ



に、ワインと成人病の関係を真剣に研究しているイギリスの学者グループがあります。心臓病、ことによると予防できそうだというのです。ワイン好きの熟年には、たまたま愉快な話。専門誌 *Lancet* に寄せた彼らの論文によると、先進工業諸国では年間一人当たりのワイン消費量と、五十五歳から六十四歳の男性の心臓病による死亡率は、みごとに逆比例しているのです。ワイン最多消費国のフランス、イタリアではこの種の死亡率は最低で、消費量の少ないスコットランドとワインランドでは最高の死亡率になっています。しかし、ワインとともに成人病予防に効む人達

この論文は、単に統計学的な関係が論じられただけで、因果関係の証明がないのが最大の欠点です。彼らはこの点を素直に認めつつ、さすがはジョンブル魂、その要因がアルコールにあるのか、ワイン副成分（香気成分や微量元素）にあるのかを徹底的に追求するといい、加えて白ワインと赤ワインのどちらがとくに効くかという重要な問題も未解決のままにしておくわけにはゆかぬ、と意気ますます軒昂。

神戸ワインがいよいよ出荷ときます。これを機に、ワインと成りませんか。しかし、飲み過ぎは困ります。心臓病は防げても肝硬変にならずにすむ道は、まだ開かれていません。

神戸新聞イミミ医療相談より「一通話の医学」—成人編—（高石務著）を、愛読者先着50名様にプレゼントいたします。この本は、神戸新聞イミミ「キック局」育児・医療相談として掲載された記事をまとめたもので、的確に病気の症状をとらえ、わかりやすい文章でまとめてあります。ご希望の方は、ハガキに住所・氏名、電話を記入の上、神戸っ子編集室までお申し込み下さい。

ジヤズとスボーツ

鍋島 直祐
（ハイアニスト）

さる九月二日に行われた兵庫県マスター陸上競技選手権大会M五五クラス一〇〇メートルで運良く優勝することが出来た。先日三の宮の



100mを13秒でゴールを切る筆者

喫茶店で小泉女史と出会いこの話をした所「鍋島さんジヤズとスポーツと題して何か書いてよ」と言われ一瞬戸惑ったが、プロのジャズミュージシャンとしてスポーツを両立させることを信条とし、若いミュージシャンにもスポーツをやることを奨めていることもあって、おこがましいと思つたがお受けさせて頂くことにした。

昭和八年東京麹町の私立暁星小学校で秋の運動会が行われ僕も出場徒歩競走で一着になつた。子供心にこの時から「俺は皆より速いんだ」と思うようになり、以来走ることが好きになつた。

また、ちょうど小学校に入った頃から両親が僕にヴァイオリンを習わせたのである。僕の音楽とスポーツとの出合いである。中学に進んでからそれ迄あまり気乗りのしなかつた音楽が好きになり、この頃からピアノもやるようになり戦後ジヤズに移つて行つた。この辺の事は機会があつたら別に述べたいと思う。僕の母方の伯父に高木正行という人がいる。大正十

年から昭和二年迄の間の日本の代表的スプリンターで十秒三の記録を持つている。そして無類のジャズ好きで、僕はこの伯父の影響大なる所があり尊敬している。娘の結婚式には僕のピアノ伴奏でスタンダードジャズを歌つてくれた。現在八十歳でお嬢、東京に住んでいるが、僕はこの伯父夫妻に会いに行くのが楽しみの一つだ。

スポーツは、厳然としたルールの上で行われる。ジャズにも和声学上の絶対のルールがある。そして何と言つてもスポーツもジャズも素晴らしいリズムが物を言う。そして両者とも美しい。オリンピックは人の心を捕える。体操の種目によつてジャズを取り入れてゐるし、スケート然り。最近はジャズダンスで汗を流す人も多い。述べれば追が無いが。

スポーツもジャズも多様化して華やかになって行くだろうが、僕は手が動かなくなる迄ピアノ・ヴァイオリンを弾きたいし、足が動かなくなるまで走りたい。

「オランダ人は日本酒が好き」

川池 勝志

△神戸市経済局貿易観光課長
ジャパンインロッテルダム'84オ

ランダと日本の友好の歴史は古い。

一六〇九年、オランダ船が平戸に入港、商館を設立し日蘭貿易が始まった。これを記念して、今年七月から約五ヶ月にわたって、ロッテルダム市が「日本・オランダ通商三七五年記念、総合日本展(ジャパンインロッテルダム'84)」を開催した。

そのなかで、八月一日から十九

日まで「日本文化週間」が設けられ、帆展、盆栽展など日本各地の参加のなかで、神戸市にも出展要請があった。ロッテルダム港とは一九六七年以來姉妹港であり、神戸市の紹介、ユニバーシアードのP・Rとあわせて、灘五郷酒造組合とともに日本酒を出展することになった。

また神戸市婦人文化協会(土井芳子会長)は親善使節団五十五名上／オランダでも灘の樽酒は好評でした
下／升酒で乾杯の音頭を(升酒を手に、左／土井芳子会長、左から2番目筆者)



を派遣した。

会場は市の中心部の広大な総合文化センター内で、白鶴、沢の大倉の六酒造メーカーが参加した。各社こもかぶりをはじめ大量の酒をもち込んだ。酒の製造工程パネルを始め、試飲コーナーを設けた。日本酒は世界でも数少ない燐として飲む酒であり、酒燐器も用意。

テーブルカットと同時に、樽から樹酒をふるまつた。燐をした酒に人々が群がりおかげをかじりながら何杯もおかわりする人も多かつた。しかし彼等は酔っぱらうことではない、平然としているのは、民族の体格の差か。

「どこで買える」「わけてほしい」「値段は」などなど問い合わせが多く、奮闘した酒造組合の美里さんの話では、灘の酒の輸出はだ

んだん増えているとはいえ、生産量のわずか0・5パーセント、しかもアメリカへがそのうちの七〇パーセントでヨーロッパは微々たるもの。原因の一つにはやはり値段が日本の二・五倍ぐらいになることだ。

日蘭友好のために神戸デーを開いた。アムステルダムにシンエーフーズが店をもつており田中社長の陣頭指揮で和食中心のパーティができ、オランダ側から喜ばれた。アトラクションの民踊や空手も好評であった。

オランダは、九州と同じくらいの面積だが国が低地の平原で、その四分の一は海面下にある。オランダ人が数世紀にわたる水との闘いによって造られた国である。生活水準は世界のハイレベルにあって、生活態度は質素でダッチカウント(割り勘)というように見栄をはることがない。また堤防で守られた国だけに戦争は避けなければならない。我が国と同じ平和愛好国民である。また物価も安く、治安もいい。チューリップや風車だけでなく、ゆったりと生活している。

だから、オランダはゆっくり散策したい国の一つである。そしてもっとお互いに理解を深める必要のある国もある。オランダに酒で乾杯!!

□夢工ツセイ(II)□

南半球の夢

野口武彦(神戸大学文学部助教授)

この八月に三週間ばかりオーストラリアを旅行してきた。一度行つたとなるとその土地に親しみを感じるのは人情で、観光案内の文句なども気になつてくる。毎月あるクレジット・カード会社から送つてくる雑誌に、たとえばこんなことが書いてあつた。「今回のツアーでは、コアラを抱けるフェザデール・ワルドライフパークをコースに組み込みました。コアラを抱いて記念写真を撮り、そして、コアラの飼となるユーカリの木を記念植樹していただきます。きっと、コアラの国を旅した最高の思い出となることでしょう」と、まあこんな具合である。

別にいぢやもんをつけるつもりはないのだが、このコビイ何となく気に入らない。さきさまでもワイルドライフパークを用意しているくらいだから、たしかに文句をいう筋合いではないのだろうが、たまにはコアラの身にもなつてみたらどうか。まあカワイイなんていうのは人間の勝手な思い込みで、毎日ダッコされるコアラの方はたまたものではないだろう。聞けば、コアラは夜行性動物なんだそうで、してみれば開園時間は貴重な睡眠タイムではないか。それにも抗議できないほど天性おとなしい動物なのだそうである。それがいつのまにか観光資源にされてしまった。

もっとも、動物に対する感覚は民族によってかなり違うものらしい。それを痛感したのは、この大陸の北東部にあるブリズベーンという町でのことだった。クイーンズランド州の州都である。年一回恒例の農産物展示会が開催されているとかで、ホテルは見るからに健康そうな農場主たちでいっぱい。みんな陽気で人がいい。それはともかく、ホテルのロビイに頑丈な檻がしつらえられ、牛が一頭陳列されているのには驚いた。檻に標札がついていて、Don't touch buttocks!(ケツにさわるな!)と書いてある。さすがはお国柄、牛のお尻をなでまわす趣味のやつがいるのか、とたいへん感心して同行者にその話をしたらげらげら笑われた。よく字を見るといわれて見直したら、正しくは Don't touch bullock!(牛にさわるな!)であります。小生最近は老眼と乱視が進んで、ときどきこんな見まちがいをする。ちなみに、bullockとは「去勢牛」のことだそうだ。いずれは食用に供される運命なのだろう。それによって時期が悪かった。折からロースアンジェルス・オリエンピックの最中とて、ロビイではテレビがつけっぱなし。そのホテルには五晩滞在したのだが、あわれやこの牡牛君、一日ごとに元気がなくなり、最後にはすっかりノイローゼ気味にな

つていた。巨体をワラの上にはいつくばらせて、うるんだ眼つきでこちらを見上げている。それを取り囲んで体重をあてるクイズをみんなでやつているのだから、やはり人情は国ごとにちがうものだ。

アメリカには「ディープ・サウス」(深南部)と呼ばれる地方があるが、反対にこの大陸には、「ディープ・ノース」という言葉があるのでそうだ。南の方が民度が高いとでもいいたニュアンスなのだろうか。なにしろここオーストラリアでは、あたたかい北風が吹き、冬には(つまり日本



ハーバーブリッジを後ろにシドニイのロックで。左が筆者、右は宇澤弘文東大経済学部教授夫妻。

の夏にあたる月々には)身を切るような南風がはるか南極大陸の方角から吹き寄せてくるのだから。そうはいってもこの八月、せっかく整えていた冬仕度はあまり必要ではなかった。ダスター コート程度でも着て出てよかつたと思ったのは、大都会では大陸最南端のメルボルンぐらいのものだろう。なにしろ島ではなくて大陸なのである。たとえば西海岸にある百万都市パースには、飛行機でざつと五、六時間はかかる。かなり身体にこたえるがしかし現地で待ち受けているのは、インド洋の海の香りを運んでくるほとんど亜熱帯の風物である。スコールのような雨が町を洗い、湖にも似たスワンに雄大な虹が架かる。

オーストラリアにはまだ広大な自然が残っている。旅行者の眼から見て美しいだけではなく、同国人もそのことをはつきりと意識している。だが、そのうらやむべき自然環境は反面また、オーストラリアがいまだなお工業立国しきれずにいる悩みともつながっている。つまりは恵まれた自然をこのまま保護しつづけるか、それを破壊するのに眼をぶつけて工業国化をはかるかという政策選択の問題である。どちらの道に進むかはもちろん他国人の口をさしはさむべき事柄ではない。しかし、北半球に住む人間が南半球に托する夢として話ををするかぎり、この地上に一つぐらいは汚染を知らない大陸が残っていてもよいのではないかという気がする。全人口わずか千五百万人のオーストラリアは、まだいまのところ、アフリカ大陸の飢餓も南米大陸の貧困も知らない。コアラを抱くのもけつこうだが、人間同士のつきあいはもつと大切である。

少年時代

東君平〈文と絵〉

ぼくの父は九州の佐賀の生まれで、母は静岡県の伊豆半島で生まれている。

その子供であるぼくの兄弟はすべて神戸生まれで神戸育ちである。

ぼくの本籍は葺合区二宮町×の×となっているが、現在は二宮町でなく中央というらしく、どうして二宮町を中央にしてしまうのか残念な気がする。

そこで戦火に遇って、今度は神戸駅近くの裁判所のまん前に引越した。ここは生田区橋通といつたが、今でもそう呼ぶのかどうか知らない。

ぼくはここで小学校を卒業するまで育った。小学校は新神戸駅近くにある雲中小学校という鉄筋三階建の学校だった。勿論、その頃は新神戸駅など無くて静かな環境だった。

そんな中で、ぼくは勉学に励んで云々と書きたいが、それがそう書けない事情がある。

今思えば、ぼくは小学生にして食道楽であつたらしい。いや、子供だから単に喰い意地が張つて

いただけと云えるかもしれないが、しかし、それも、ちょっと当らない氣もする。

ただ、腹一杯何かを食べればいいという、単純な腹の持主ではなかつた。

要するに旨い物好きで、それさえ食べられれば、今ポケットにあるお金を全部払つてもいいと、その時思つてしまふ子供だった。

屋台のタコ焼きが好きだった。

東京などではタコ焼にベタベタとソースを塗りつけて食べるが、やはり出し汁で食べなくては、ぼくなど気持悪くていやだ。そのタコ焼屋も気に入りの屋台でないと決して行かなかつた。

考えてみれば、これは空腹を満たすのではなく、やはり旨い物を食べたいという気持の方が強く働いているタコ焼喰いだったと思う。

お好み焼屋も気に入りの店しか行かない。とはいっても、子供のことだから、ちゃんとした店の暖簾をくぐる訳ではなく、これも屋台のお好み焼屋の話で、母からは「衛生に悪いからダメ」と



禁じられていた。

そのお好み焼屋のおじさんとぼくは大層仲良しだった。そしてそのうち、熊の顔や小犬の形に焼く幼稚なお好み焼など、ぼくは食べなくなつた。

「汁ばい焼いちゃうだい」

これが大の気に入りになつてしまつた。

これぞまさしく母が見れば、びっくり仰天する代物で「衛生に悪い」の最高峰と云つても過言ではなかつた。

汁ばいという名称からしてもう何だか怪し気な気がする。

この作り方と食べ方はちょっと面白い。まず、薄く小さな円で粉を焼く。焼けたところで真ん中から半径を計るようにしてここで切れ目を入れる。

それを手で持つて、くるりと丸めると、三角帽子ができる。

そうしておいて、その中に又、メリケン粉の溶いたものを流し込んで、三角帽子を鉄板の上に伏せる。図で書けば、鉄板の上にメリケン粉で焼いた三角錐がポツンと立つていて底の部分だけが熱で焼かれている。

これで汁ばいは、ほぼ出来上つたことになるけれど、後はどのくらい帽子の中のメリケン粉汁に火を通すかがこつで、そのところが、おじさんの腕の見せ所だった。

「熱いで、氣つけや」

汁ばいの食べ方は三角帽子のてっぺんを、ちょっと千切つて、熱くなつた中の汁を吸えばいい。

要するに、多少は火が通つたことになるけれど、生煮えのメリケンコ汁を食する訳で、旨いものであつたけれど、子供のお腹にはいいとは思えなか

つた。

その他には、キツネウドンに目がなかつた。

タヌキウドンでもオカメウドンでもなく、キツネウドンが好きだつた。

母からノートを買うといつてお金を貰つてはキツネウドンを食べた。

父から教科書代だといつて貰つたお金もキツネウドン代にして食べてしまつた。

ある時は一生の想い出の卒業記念写真代までもキツネウドンにして食べてしまつた。

この春、三十年振りの同窓会が三宮近くのウドン屋の三階であつた。中には三十年間一度も会わなかつた同級生もいた。

卓には大鍋でウドンすきが用意されていた。そういうえば、神戸のウドンにも三十年近く会つていなかつた。たつた二時間、同窓会のためにだけ新幹線で駆けつけた慌だしの時間であつたけれど、幼な馴染みと顔を合せたことや、懐かしいウドンを味わつたことは忘れられない。今、机にその時のスナップ写真が何枚かある。

そこに写っている大鍋にもウドンの顔がチラリと見える。

近々母を連れて神戸へ行くことになつてているので、機会があればウドン屋へ行こうと思つてゐる。母はもう七十五才になる。

神戸を離れて、かれこれ三十数年経つ。どんな顔で駅に立つか楽しみにしている。

△著者紹介△



ひがしくんべい／1940年、神戸生まれ。
イラスト、絵本、童話など幅広い分野で活躍中。
金の星社、あかね書房等より多数の児童書を発行している。東京都中野区在住。



神戸発全国便

小さな引越し受付中

24時間営業 / 年中無休

【梱包便】電化製品、家具類、エレクトーン、自転車等
美術品、骨董品（どんなワフレでも御相談に応じます。但し地域限定）

ユーミノルサービス

(元658) 神戸市東灘区住吉南町1丁目10-1

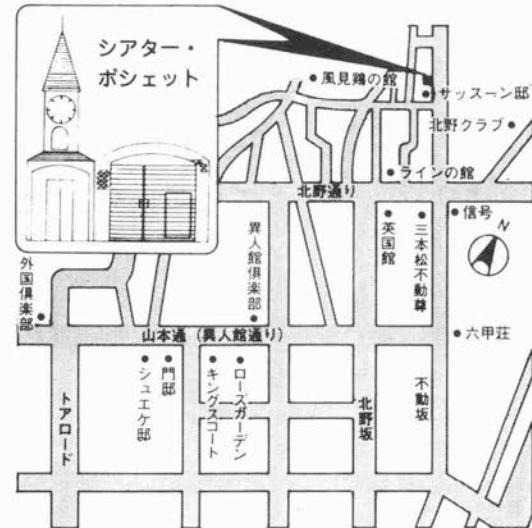
本社(078) 822-1700(代)

芦屋営業所(0797) 23-6710

実験交流サロン

シアター・ポシェット

- 11月3／4日 劇団ETC「星の時間」(作・別役 実)
 3日 6時 7時 4日 2時 3時
 18日 名曲サロンコンサート“チャリティ”
 釜田侑子門下生 2時～4時
 17日 ピアノ弾き語りコンサート
 安藤義則門下生
 22～25日 三島由起夫の文学と人生 話と展示会
 講師 ルイス・カナリス先生
 29日 秋の芸術祭参加「親子むすび」上映会
 2時～3時



★シアター利用のご案内

- 営業日、時間 / 土、日曜日（通常）A.M10:00～P.M.8:00
- 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー、テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
 佐本小兒歯科 佐本進 ☎ 331-6302～3

△その62▽

台湾アミ族にみる 共感の場としての祭

磯 千秋 △武庫川女子大学講師▽



アミ族の村、東興村でのイリシン祭

台湾高山族のアミ族の村々では、八月中旬に祭が行なわれる。今は、全村統一の祭日を定め、月見祭と呼んでいることが多いが、古い資料によれば、この「イリシン」又は「ミリシン」の祭は正月祭と考へられており、栗の播種祭・収穫祭と並ぶ大祭とされている。つまり、栗収穫(今は稲)を終え、農曆の新年が始まるのである。しかし、これは、彼ら本来の祭では

なく、栗収穫終了後行なわれる台湾本島人の正月行事と集合したものであろう。

ところで、現在のイリシン祭は、各村あるいは教会を中心にして、七日間催される。簡略化されではいるが、その中心イベントは、夜を徹して行なわれる唄と踊りである。村の男女が正装して円陣を組み、右足を基調に左足で変化をつける単調な踊り、「オイヤハーエイハーハー」の掛け声を中心とする唄の繰り返しである。これが婉々と続けられるのは、老年組の若者組に対するしごきだったとえば平常の反抗や怠惰、踊りを休む、踊り方が悪いことに對して木たたくこと、一方では恋のかけひきの場(今はむしろ公表の場になることが多い)としての意味をも持つている。その唄は、主導する唄の上手がいて、それに唱和する形で進められる。一般に高山族の人々は唄に巧みなことで知られているが、殊に収穫を終え新しい年を迎える祭の場での唄声は格別である。同じようなフレーズの繰り返しが、ある時は哀調を帯び、ある時は歓喜の響きをもつ。

歌、民謡とは、本来労働や祭儀の場において、かけあう形式として生まれてきたものであろう。それは、その場の人々の共感から生まれた詠嘆である。

秋祭が各地で行われる季節になった。地方の、神社を中心とする小規模な村祭には、村の歴史や生業から生まれる共感がある。一方、都市で華やかに繰り広げられる祭は、参加する人々、見る人々のどのような共感に支えられていであろうか。

ここで想い起されるのが、日本の古代における歌垣あるいは唄歌(かがい)である。それは「常陸風土記」筑波郡の記事によれば「春花開時、秋葉黄節」つまり春の豊作祈願、秋の収穫感謝の祭に付随した行事であつたろう。その折、唄歌が「かけ・あひ」と考えられるように、男女のかけあいで歌のやりとりが行なわれた。「住吉の小田を刈らす子奴こねかも無き、奴あれど妹が御み為なと私田刈な」(万葉集「卷七、旋頭歌」)のような歌が、労働の場を背景にやりとりされたであろう。

目を転じると、沖縄にかつて存在した「もう遊び」「奄美大島の折目踊り」「田植唄」などにみられる男女のかけあい唄、更に、中国雲南省やチベットの一部に行なわれるかけあいなど、歌垣と同じような「唄の場」をみるとことができる。